センニチコウ（千日紅）
Gomphrena globosa
（ヒユ科）

長く咲く紅い花で千日紅と呼ばれるが，白，ピンク，黄の花もある．切り花は水あげが悪く，萎れやすい．盆や彼岸の定番であるが，今では1年中流通し，洋花としてアレンジなどにも使われる．縦長の球状の花（頭状花）は葉が変形した苞で，本当の花は苞の中から頭を出すように咲き，目立たない．頭状花は若いときには球状だが，古くなるにしたがい縦長のラクビーボール状になる．苞はかさかさし，ドライフラワーになる．ハウス栽培では茎が軟弱で水あげが悪くなりやすい．頭状花は老化による変化が少ないので，ベントネック（花首の萎れ）と葉の老化で日持ちを判定する．後処理剤の効果はない．

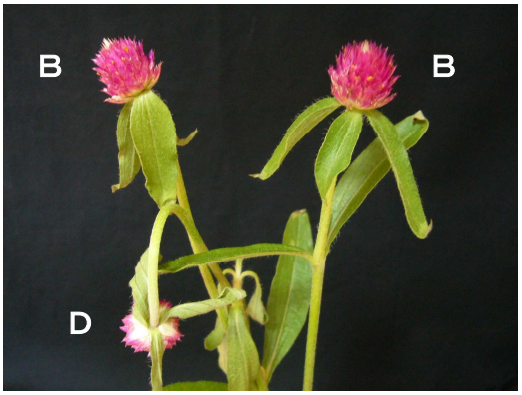
1）品質評価基準

項　目	判　定　基　準	備　考
ベントネック：花首の萎れ	A：硬く直立 B：花首がやや軟らかくなる D：花首が垂れ，花が下を向く（ベントネック）	A，Bから一挙にDになる．
葉の萎れ・黄変・褐変	A：張りがあり，緑色 B：葉先が内側へ巻く C：張りを失い，葉の1/2程度が褐変 D：張りを失い，葉の大部分が褐変，乾燥	下位葉が上位葉に先行するが，その時間差は小さい．
その他		

2）留意点

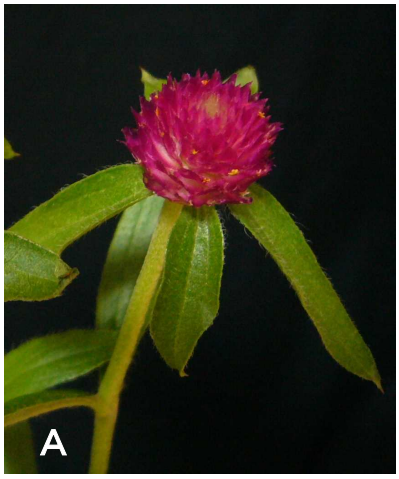
・後処理剤の効果はない．

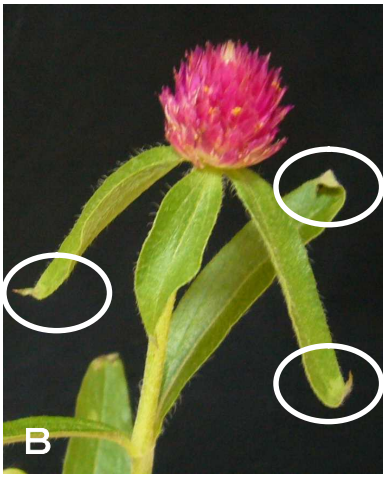
3）開花（ベントネック）



4）チェック事項

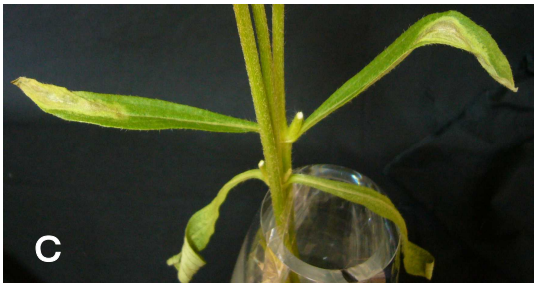
上位葉





葉先が内側に巻く

下葉



½程度が褐変

大部分が褐変・乾燥